

平成27年人口動態統計(確定数)のポイント

平成28年12月5日に厚生労働省が公表した平成27年の人口動態統計について、大分県の概況を取りまとめました。主な数値は以下のとおりです。

1 合計特殊出生率は上昇、全国順位は14位 出生数は過去最少を更新

合計特殊出生率(15～49歳の女性の年齢別出生率の合計)は1.59で、前年の1.57より0.02上がり、全国順位は14位。

出生数は9,112人で前年の9,279人より167人減少し、前年に引き続いて過去最少を更新した。(明治32年以降)

区 分		H25	H26	H27
合計特殊 出生率	大分県	1.56	1.57 (0.01)	1.59 (0.02)
	全国	1.43	1.42 (△0.01)	1.45 (0.03)
	全国順位	13	11	14
出生数	大分県	9,605	9,279 (△326)	9,112 (△167)
	全国	1,029,816	1,003,539 (△26,277)	1,005,677 (2,138)

()は、前年からの増減

2 死亡数は減少、自然増減は減少幅が拡大

死亡数は昭和50年代後半以降、増加傾向にある。今回13,958人となり、前年14,065人より107人減少。

自然増減は、平成11年以降、死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いているが、今回△4,846人となり、前年△4,786人よりも減少幅が拡大した。

3 婚姻件数は減少、平均初婚年齢は下降

婚姻件数は減少傾向にある。前年より76組減少し、今回5,315組。(戦後最少)
平均初婚年齢は下降し、夫30.3歳(前年30.5歳)、妻29.0歳(前年29.1歳)

※人口動態統計とは…

戸籍法等による、出生、死亡、死産、婚姻及び離婚の5つの届出を基に市町村長が作成する人口動態調査票を取りまとめ、集計したもの。

人口動態総覧

		大 分 県			全 国			
		26年	27年	対前年	26年	27年	対前年	
1 出 生	実 数	9,279人	9,112人	△167人	1,003,539人	1,005,677人	2,138人	
	率	8.0	7.9	△ 0.1	8.0	8.0	0.0	
	順 位	16位	21位	5位↓				
2 合計特殊出生率	率	1.57	1.59	0.02	1.42	1.45	0.03	
	順 位	11位	14位	3位↓				
3 死 亡	実 数	14,065人	13,958人	△107人	1,273,004人	1,290,444人	17,440人	
	率	12.1	12.1	0.0	10.1	10.3	0.2	
	順 位	32位	30位	2位↑				
(再掲)	4 乳児死亡	実 数	21人	17人	△4人	2,080人	1,916人	△164人
		率	2.3	1.9	△ 0.4	2.1	1.9	△ 0.2
	順 位	31位	24位	7位↑				
5 新生児死亡	実 数	10人	9人	△1人	952人	902人	△50人	
	率	1.1	1.0	△ 0.1	0.9	0.9	0.0	
	順 位	34位	30位	4位↑				
6 自 然 増 減	実 数	△4,786人	△4,846人	△60人	△269,465人	△284,767人	△15,302人	
	率	△ 4.1	△ 4.2	△ 0.1	△ 2.1	△ 2.3	△ 0.2	
	順 位	28位	28位	-				
7 死 産	実 数	257胎	286胎	29胎	23,524胎	22,617胎	△907胎	
		率	27.0	30.4	3.4	22.9	22.0	△ 0.9
		順 位	40位	47位	7位↓			
	自然死産	実 数	93胎	112胎	19胎	10,905胎	10,862胎	△43胎
		率	9.8	11.9	2.1	10.6	10.6	0.0
		順 位	13位	39位	26位↓			
	人工死産	実 数	164胎	174胎	10胎	12,169胎	11,755胎	△414胎
		率	17.2	18.5	1.3	12.3	11.4	△ 0.9
		順 位	44位	47位	3位↓			
8 周 産 期 死 亡	実 数	31	48	17	3,750	3,728	△ 22	
		率	3.3	5.2	1.9	3.7	3.7	0.0
		順 位	14位	47位	33位↓			
	妊娠満22週以後の死産	実 数	22胎	41胎	19胎	3,039胎	3,063胎	24胎
		率	2.4	4.5	2.1	3.0	3.0	0.0
	早期新生児死亡	実 数	9人	7人	△2人	711人	665人	△46人
率		1.0	0.8	△ 0.2	0.7	0.7	△ 0.0	
順 位		40位	33位	7位↑				
9 婚 姻	実 数	5,391組	5,315組	△76組	643,749組	635,156組	△8,593組	
	率	4.6	4.6	0.0	5.1	5.1	0.0	
	順 位	29位	27位	2位↑				
10 離 婚	実 数	2,004組	2,066組	62組	222,107組	226,215組	4,108組	
	率	1.72	1.78	0.06	1.77	1.81	0.04	
	順 位	25位	30位	5位↓				
平均発生間隔 (平成27)		出生…57分41秒に1人			出生…31秒に1人			
		死亡…37分39秒に1人			死亡…24秒に1人			
		婚姻…1時間38分53秒に1組			婚姻…50秒に1組			
		離婚…4時間14分24秒に1組			離婚…2分19秒に1組			

注1) 出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率は人口千対。乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対。死産率は出産(出生+死産)千対。周産期死亡率及び妊娠満22週以後の死産率は出産(出生+妊娠満22週以後の死産)千対。

注2) 全国順位について、出生・合計特殊出生率・自然増加・婚姻は高率順、他は低率順としている。

1 出生

(1) 出生数は9,112人で、前年より167人減少、過去最少となった。

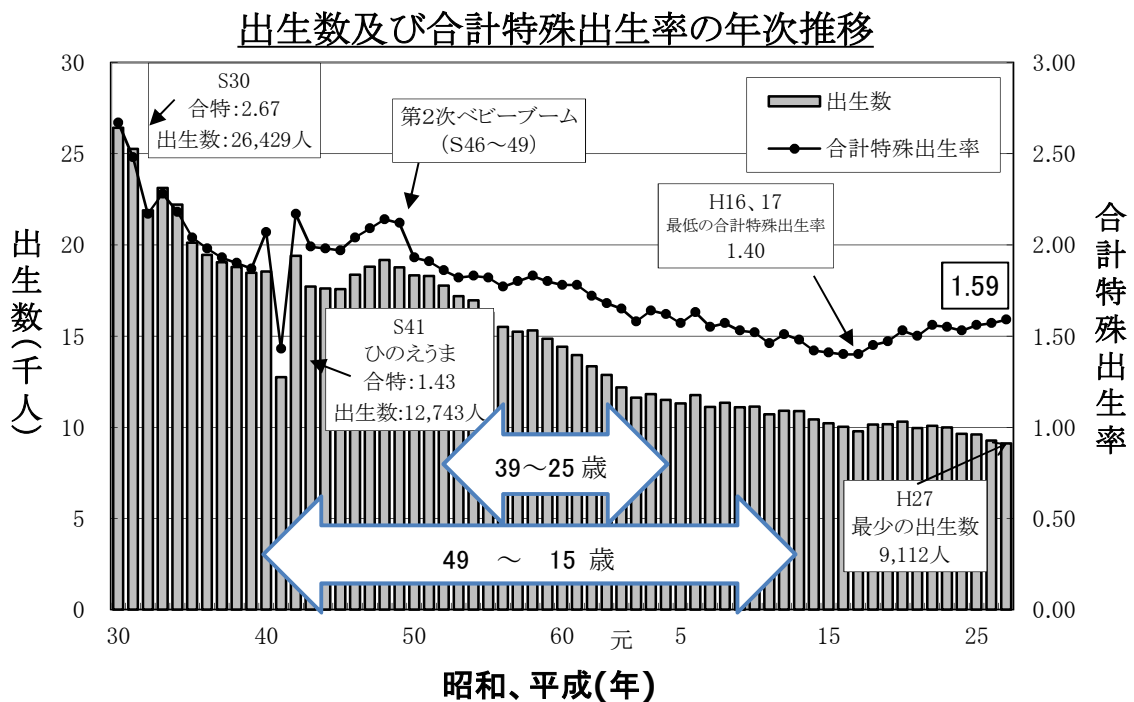
出生率（人口千対）は7.9で、前年の8.0を下回った。

(2) 出生数を母の年齢別にみると、40歳代で57人増加し、20歳代で136人、30歳代で61人の減少となっている。

年齢階級 (歳)	出生数 27年	出生数 26年	増減
15～19	98	125	△27
20～24	924	947	△23
25～29	2,628	2,741	△113
30～34	3,219	3,214	5
35～39	1,827	1,893	△66
40～44	407	350	57
45～49	9	9	0
合計	9,112	9,279	△167

2 合計特殊出生率

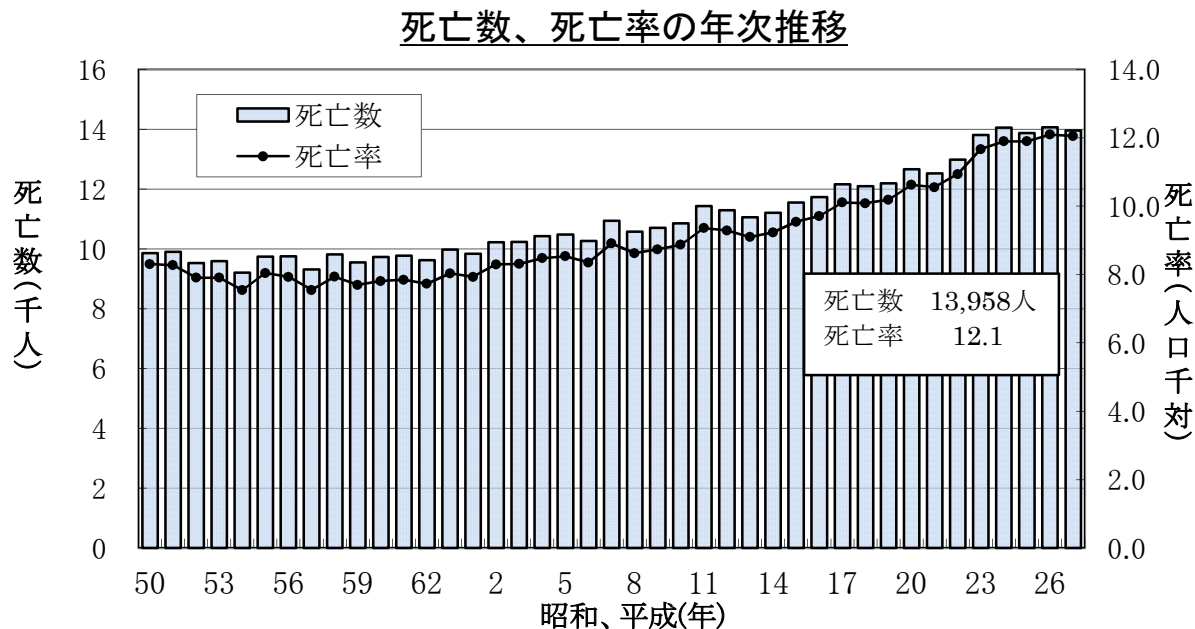
合計特殊出生率は1.59で、前年の1.57を上回り、3年連続で上昇した。
 なお、全国の合計特殊出生率は1.45で、前年の1.42を上回った。



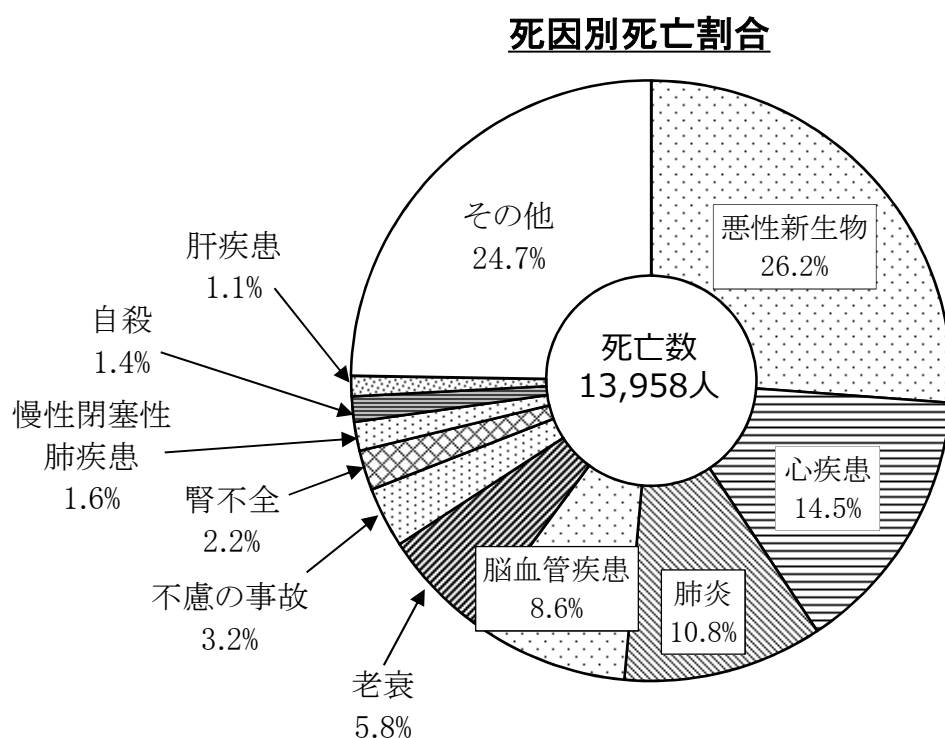
3 死亡

(1) 死亡数は13,958人で、前年より107人減少した。

死亡率（人口千対）は12.1で、前年12.1と同じである。年次推移を見ると、昭和50年代後半以降、上昇傾向にある。



(2) 死因順位についてみると、第1位は悪性新生物26.2%、第2位は心疾患14.5%、第3位は肺炎10.8%、第4位は脳血管疾患8.6%である。



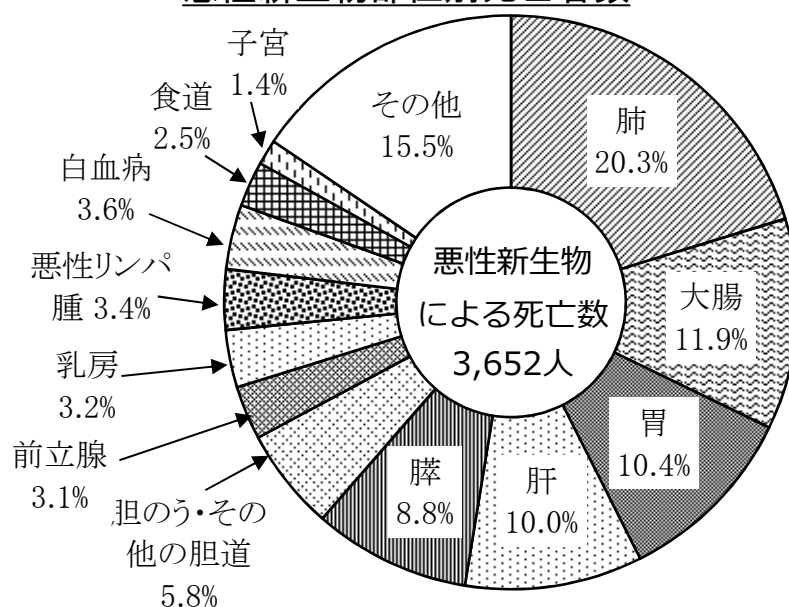
また、死因別死亡数を前年と比較すると、増加したのは老衰（71人）、肺炎（60人）、腎不全（18人）及び肝疾患（2人）である。

主な死因別死亡数・死亡率

死 因	平成 27 年				平成 26 年			対前年比	
	順位	死亡数	死亡率	割 合	順位	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
全死因		13,958	1205.4	100.0		14,065	1209.4	△ 107	△ 4.0
悪性新生物	1	3,652	315.0	26.2	1	3,836	329.8	△ 184	△ 14.8
心疾患	2	2,026	175.0	14.5	2	2,056	176.6	△ 30	△ 1.6
肺炎	3	1,502	129.7	10.8	3	1,442	124.0	60	5.8
脳血管疾患	4	1,207	104.2	8.6	4	1,282	110.2	△ 75	△ 6.0
老衰	5	804	69.4	5.8	5	733	63.0	71	6.4
不慮の事故	6	453	39.0	3.2	6	484	41.6	△ 31	△ 2.5
腎不全	7	301	26.0	2.2	7	283	24.3	18	1.7
慢性閉塞性肺疾患	8	217	18.7	1.6	8	228	19.6	△ 11	△ 0.9
自殺	9	191	16.4	1.4	9	205	17.6	△ 14	△ 1.2
肝疾患	10	151	13.0	1.1	10	149	12.8	2	0.2

なお、悪性新生物の部位別の内訳は、肺（20.3%）大腸（11.9%）胃（10.4%）肝（10.0%）の順に多く、この4つで悪性新生物の52.6%を占める。

悪性新生物部位別死亡者数



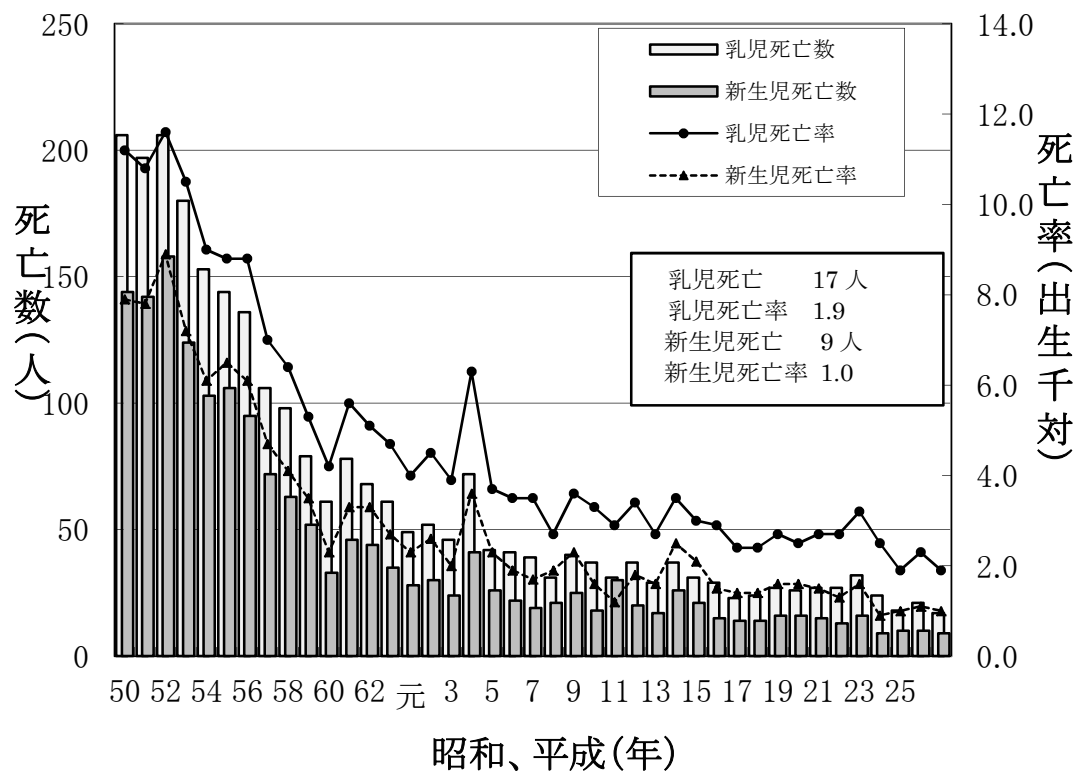
4 乳児死亡

生後1年未満の死亡である乳児死亡数は17人で、前年より4人減少した。乳児死亡率（出生千対）は1.9で、前年の2.3を下回った。年次推移をみると、昭和の終わりにかけて急激に低下し、その後は増減を繰り返しながら、ほぼ横ばいに推移している。

5 新生児死亡

生後4週未満の死亡である新生児死亡数は9人で、前年より1人減少した。新生児死亡率（出生千対）は1.0で、前年の1.1を下回った。年次推移は乳児死亡と同様の傾向となっている。

乳児（新生児）死亡数・率の年次推移



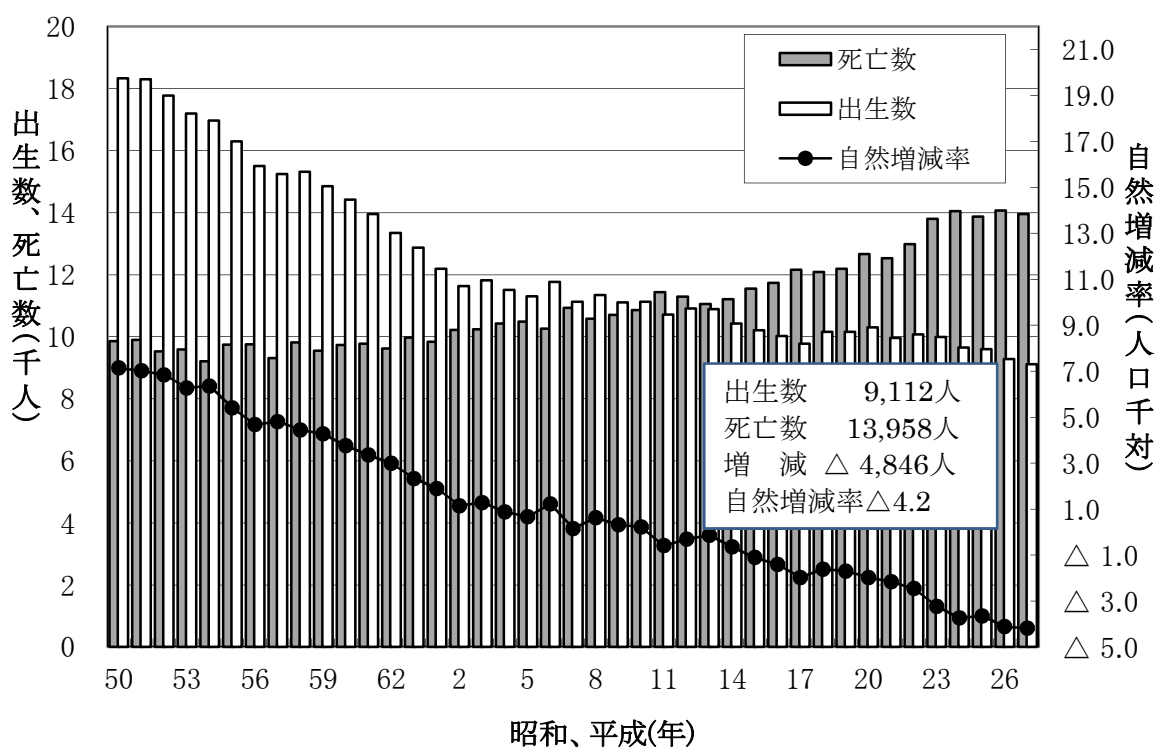
6 自然増減

自然増減（出生数－死亡数）は平成 11 年以降、死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いている。

増減数は△4,846 人で、前年の△4,786 より減少幅が拡大した。

自然増減率（人口千対）は△4.2 で、前年の△4.1 を下回った。

出生数、死亡数、自然増減率の年次推移

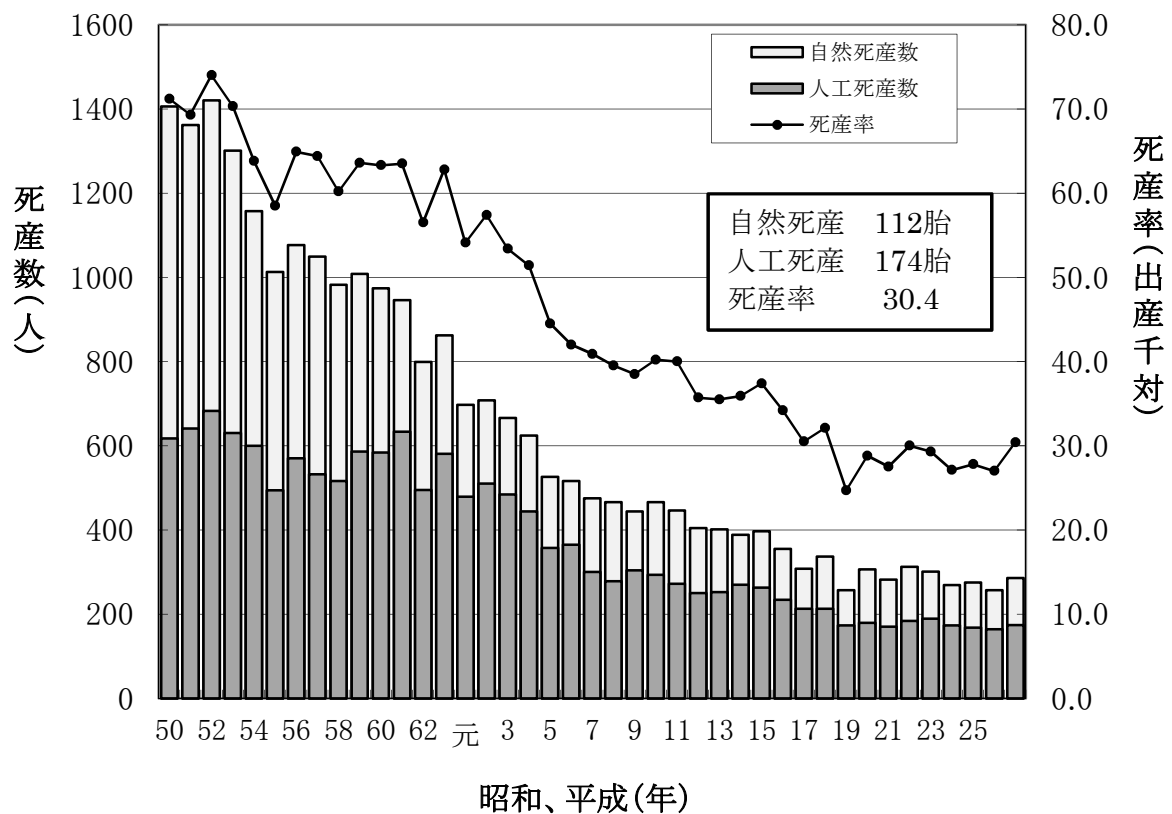


7 死産

死産数は286胎で、前年より29胎増加した。その内訳は自然死産112胎、人工死産が174胎となっている。

死産率（出産千対）は30.4で、前年の27.0を上回った。年次推移をみると、増減を繰り返しながら減少傾向にある。

死産数（率）の年次推移



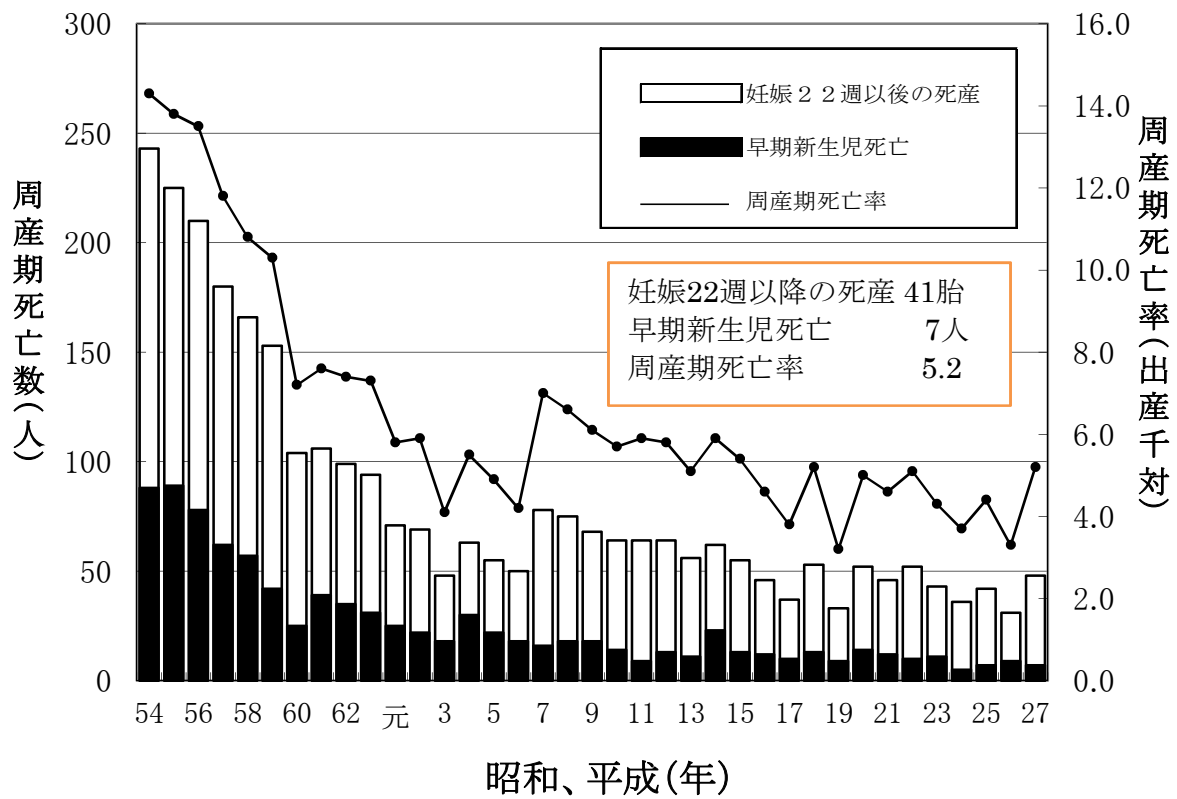
8 周産期死亡

妊娠満 22 週以後の死産に生後 1 週未満の早期新生児死亡を加えた周産期死亡数は 48 (胎・人) で、前年の 31 (胎・人) より 17 人増加した。

その内訳は妊娠満 22 週以後の死産が 41 胎、生後 1 週未満の早期新生児死亡が 7 人となっている。

周産期死亡率 (出産千対) は 5.2 で、前年の 3.3 を上回った。年次推移をみると、昭和の終わりから平成の始めにかけて急激に低下し、以降増減を繰り返しながら横ばいに推移している。

周産期死亡数 (率) の年次推移

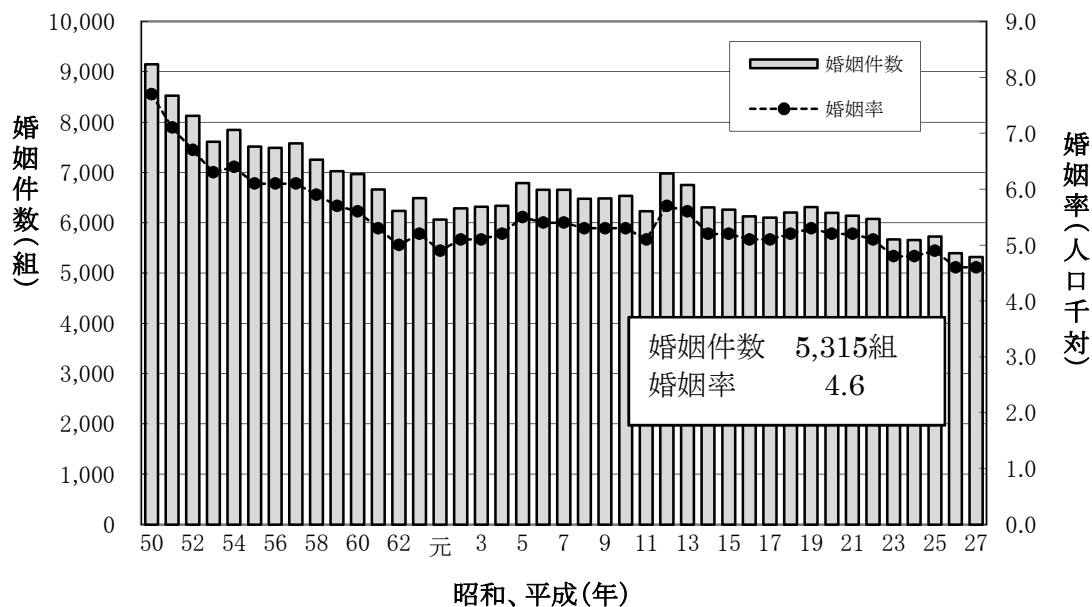


9 婚姻

婚姻件数は5,315組で、前年より76組減少した。

婚姻率（人口千対）は4.6で前年の4.6と同じである。年次推移をみると平成に入って横ばいに推移していたが、近年は減少傾向にある。

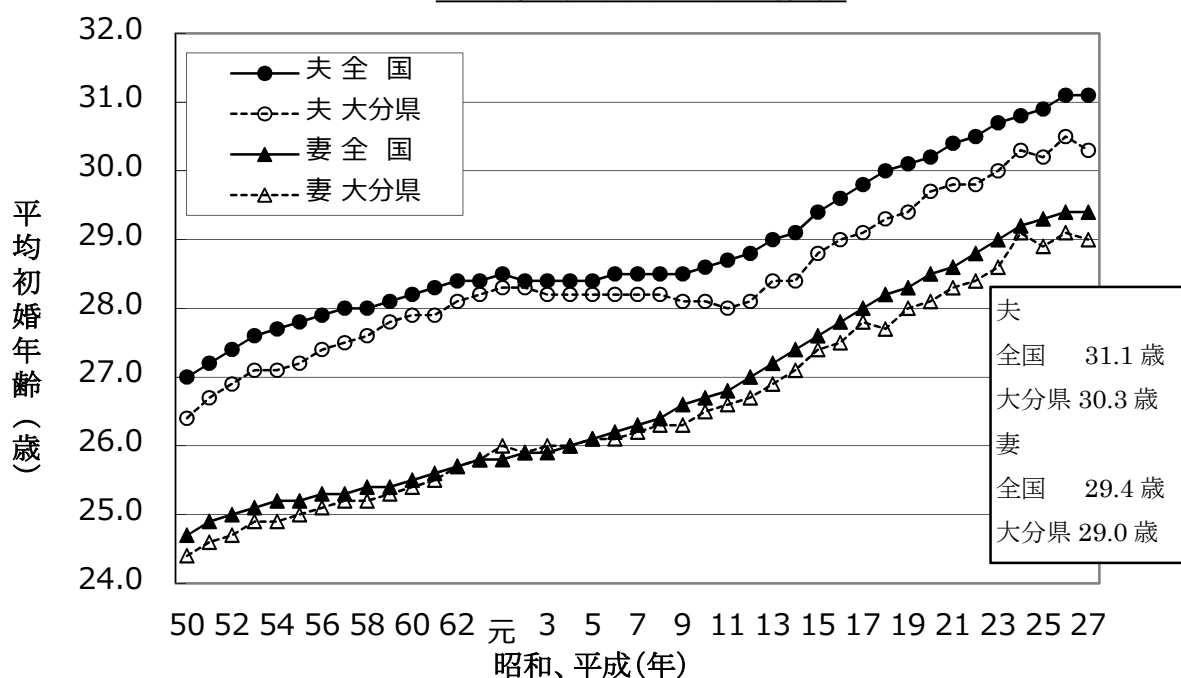
婚姻件数、婚姻率の年次推移



平均初婚年齢は、夫30.3歳、妻29.0歳であった。

平均初婚年齢は、これまで上昇傾向にあったが、夫妻ともに下降した。

平均初婚年齢の年次推移



10 離婚

離婚件数は2,066組で、前年より62組増加した。

離婚率（人口千対）は1.78で、前年の1.72より増加した。

